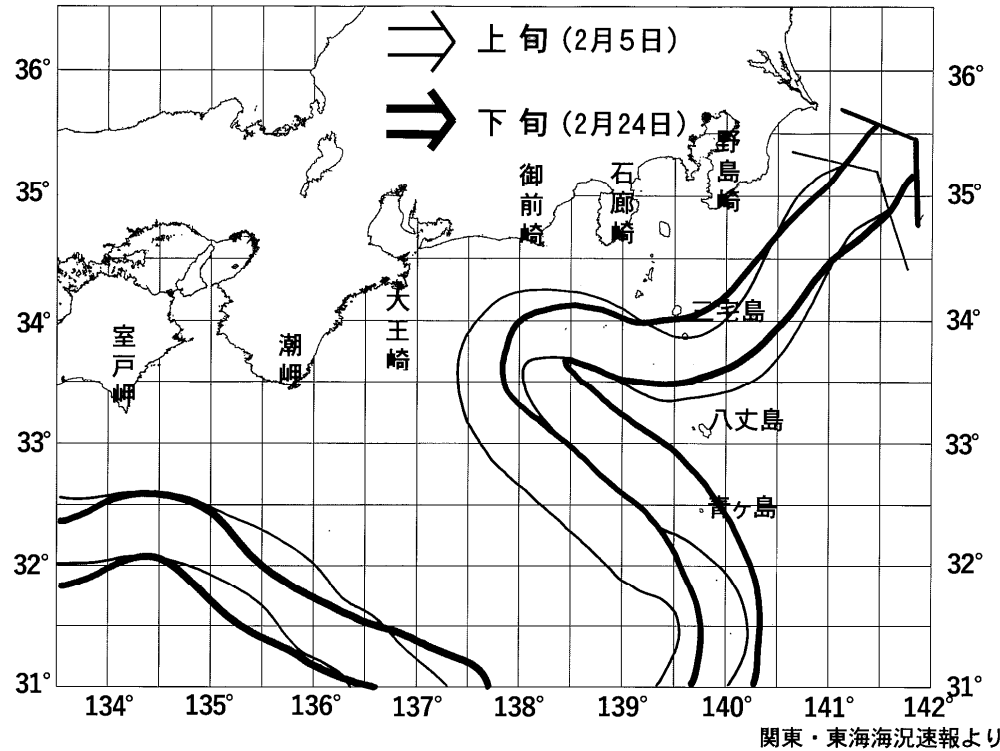


漁海況月報

令和3年2月1日

No.2 ~2月28日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	15.9	15.7	15.2	16.3	15.5	16.2
	1.9	1.3	1.4	1.9	1.4	2.7
中旬	15.2	15.5	15.0	15.9	14.8	15.3
	1.3	1.3	1.3	1.7	0.8	1.9
下旬	14.9	14.7	14.4	15.5	15.6	14.9
	1.2	0.7	0.7	1.2	1.9	1.5
月	15.3	15.3	14.9	15.9	15.3	15.6
	1.5	1.1	1.2	1.6	1.3	2.2

*地頭方の水温観測は終了しました。

[黒潮流路]

潮岬を大きく離岸した後に遠州灘沖で南方へ大きく離岸し、S字状に北上する流路となった。上旬は潮岬を大きく離岸し、遠州灘沖30.5°Nまで南下した後に遠州灘沖をS字状に北上する流路となり、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。中旬は潮岬を大きく離岸し、遠州灘沖30.5°Nまで南下した後に八丈島、大王崎に接近して遠州灘沖をS字状に北上する流路となり、熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。下旬は潮岬を大きく離岸し、遠州灘沖30.5°Nまで南下した後に、八丈島に接近して遠州灘沖をS字状に北上する流路となり熊野灘、遠州灘、大島西水道に向けて暖水波及が見られた。

[県下沿岸域]

上旬は稲取、下田、沼津で「やや高め」、伊東、雲見で「高め」、焼津で「極めて高め」であった。中旬は伊東、稲取、下田、沼津で「やや高め」、雲見、焼津で「高め」であった。下旬は伊東、稲取、下田、雲見で「やや高め」、沼津、焼津で「高め」であった。

[竿釣カツオ]

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚量は4.1トンであった(前年同月は水揚げなし)。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R3年2月上旬	0	0	-	-
中旬	0	0	-	-
下旬	4.1	1	4.1	402
R3年2月計	4.1	1	4.1	402
R2年2月計	0	0	-	-
H31年2月計	86.4	5	17.3	207

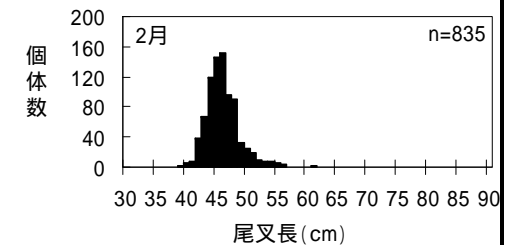


図 御前崎港で測定したカツオの尾叉長組成

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は525.2トンで前年の同漁場の水揚量(460.8トン)の1.1倍であった。また、1か統あたりの水揚量は、75.0トンで前年(65.8トン)の1.1倍、平年(30.7トン)の2.5倍であった。水揚量の多い漁場は、川奈漁場(126.7トン、マイワシ、さば類、スルメイカ)次いで富戸漁場(123.6トン、マイワシ、さば類、スルメイカ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)の通りで、マイワシは302.4トン、前年比81%、平年比8.5倍で、2月の水揚量としては昭和57年以降、令和2年に次いで多かった。さば類は105.8トン、前年比3.4倍、平年比4.1倍であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは37.2トン、前年比3.6倍、平年比9.2倍で、平成9年以降、最も多かった。ゴマサバは68.6トンで、前年比3.3倍、平年比3.2倍であった。さばっこは4.6トン、前年比63%、平年比11.2倍で、令和2年に次いで多かった。カタチイワシは39.6トンで、前年比7.9倍、平年比73%であった。ボラは15トン(2月24日の伊豆

山漁場の水揚量) 平年比 31.3 倍 (前年は水揚げ無し) で、昭和 57 年以降、最も多かった。スルメイカは 14.5 トンで、前年比 1.9 倍、平年比 61% であった。その他の魚種については、イサキ、ヒラソウダ、マダイ、マルソウダ、メアジの水揚量が昭和 57 年以降、最も多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下 (表) の通りで、各漁場の水揚量の割合は、マイワシでは川奈漁場が 34% (102.5 トン) 富戸漁場が 23% (68.2 トン) 北川漁場が 22% (65.3 トン) さば類では富戸漁場が 44% (46.3 トン) 北川漁場が 28% (29.6 トン) カタクチイワシでは古網漁場が 73% (28.8 トン) 北川漁場が 24% (9.5 トン) ポラでは伊豆山漁場が 100% (15.0 トン) スルメイカでは川奈漁場が 27% (4.0 トン) 富戸漁場が 25% (3.6 トン) 北川漁場が 16% (2.3 トン) を占めた。

* 平年 : 昭和 57 年 ~ 令和 2 年の平均値

(表) 多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マイワシ	302.4	0.81	8.49	川奈、富戸、北川
さば類	105.8	3.39	4.06	富戸、北川
カタクチイワシ	39.6	7.92	0.73	古網、北川
ポラ	15.0	-	31.3	伊豆山
スルメイカ	14.5	1.93	0.61	川奈、富戸、北川

[サバたもすくい網]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい主体で操業した。漁場は、上旬及び中旬は大島南部、下旬は利島に形成された。水揚量はマサバ 618 トン (前年同月比 49%) ゴマサバ 82 トン (前年同月比 1.6 倍) であり、1 隻あたり水揚量はマサバ 19.3 トン (前年同月比 64%) ゴマサバ 2.6 トン (前年同月比 2.2 倍) であった。

1kg あたり平均単価はマサバは 96 円で前月 (203 円) 前年同月 (125 円) を共に大きく下回った。ゴマサバは 111 円で前月 (114 円) とほぼ同額であり、前年同月 (120 円) をわずかに下回った。

水揚げされたマサバの体長組成は 29cm と 33cm にモードを持つ二峰型、ゴマサバの体長組成は 33cm にモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類 (たもすくい網漁業) 水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚 日数	水揚 隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R3 年 2 月上旬	168	36	4	10	16.8	3.6	130	119	大島南部
中旬	211	43	4	14	15.1	3.0	84	106	大島南部
下旬	239	3	3	8	30.0	0.3	82	96	利島
R3 年 2 月 計	618	82	11	32	19.3	2.6	96	111	大島南部 利島
R2 年 2 月 計	1,259	51	13	42	30.0	1.2	125	120	利島、銭洲
H31 年 2 月 計	679	111	12	32	21.2	3.5	121	119	利島、三本、銭洲

* 水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、伊東港では 154.9 トン (前年同月比 33.6%、平年同月比 66.1%) 沼津港では 466.9 トン (前年同月比 43.8%、平年同月比 42.9%) 小川港では 209.2 トン (前年同月比 67.8%、平年同月比 40.3%) 静浦港では水揚げが無かった。カタクチイワシは、伊東港では 2.9 トン (前年同月水揚げ無し、平年同月比 14.4 倍) 小川港では 0.1 トン (前年同月比 16.7%、平年同月比 2.0 倍) 静浦港、沼津港では水揚げが無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網 7 か統の水揚量は、マイワシは 302.4 トン、カタクチイワシは 39.6 トンであった。

* 平年 : 過去 5 か年 (平成 28 ~ 令和 2 年) 平均値

[調査船駿河丸の動向]

2 月 4 日	地先定線観測調査	(1 日間)
2 月 5 日	地先定線観測調査	(1 日間)
2 月 19 日	いわし類卵稚仔分布調査	(1 日間)
2 月 24 日 ~ 2 月 25 日	さば類標識放流調査 (三本)	(2 日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

